

3. 胸部・肺疾患 33 例

- 1) 肺癌 17 例
(肺葉切除 15, 胸腔鏡下生検 2)
- 2) 気胸 9 例 (胸腔鏡手術 9)
- 3) 良性腫瘍 3 例
(胸腔鏡手術 2, 肺葉切除 1)
- 4) 膿胸 1 例
- 5) 胸壁腫瘍 1 例 (胸腔鏡下摘出術)
- 6) 縦隔 2 例 (胸腔鏡手術 2)

手術の低侵襲下をめざして、積極的に胸腔鏡手術、胸腔鏡補助下手術を導入しております。マルチスライス CT の導入により小径の腫瘍が発見されるようになり、胸腔鏡に術中迅速病理診断（テレパソ）を併用し、確定診断をつけ、治療にあたってきました。手術死亡はありませんでした。

4. その他 46 例

大腿切断、気管切開、腸瘻造設、交通外傷、リンパ節ブローベ、腫瘍切除など

論文、学会活動

論文発表 5 篇（うち英文 1 篇）、学会、研究会、講演会における発表が 31 題ありました。このうち全国規模の学会、研究会における発表が 11 題あり、その内の 3 題はシンポジウム、ワークショップでの発表でした。検討できる症例数が増加し、観察期間がある程度の長さになったため、様々な検討ができるようになり、ますます内容の濃い発表が行えると思います。きちんと成績をまとめ、問題点があればそれを改善し、さらなる治療成績の向上をめざすつもりです。

おわりに

この地域の基幹病院として、ますます機能を充実させていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。また、当科で扱う手術は大掛かりなものが多く、臨床工学科、検査科、放射線科など他部門の協力なしには成り立ちません。休日、夜間を問わず、ご協力をいただいた皆様に感謝致します。

整形外科この一年

整形外科医長 高橋 宏 明

人 事 移 動

平成 12 年は、高橋宏明、三上将、室田栄宏、放生憲博の 4 名で 3 月まで診療を行って参りましたが、4 月より、室田が北大へ、放生が美唄労災病院へ研修のため転出し、北大から西池修（平成 11 年に 3 カ月在院）を再び迎え、昨年同様 1 名減の 3 名のスタッフで診療スタートとなりました。不幸にも本年は 1 年目ドクターの派遣はなく、数

年振りの通年 3 人体制となりました。この体制はしばらく続くものと思われます。

診 療 状 況

外来は従来通り、予約制、午前のみ受付で行っています。月水金を 2 診体制、火木を 1 診体制で行っています。1 日平均外来数も 150 名前後で昨年と比べさほど変わりません。スタッフの数の制

限から物理的限界ではないかと考えます。予約外患者も可能な限り診療しておりますが、1診で3時4時までかかる状況が続く病棟、手術業務をかなり圧迫しております。救急搬送が入ると外来がストップします。入院は5階西病棟49床で対処しております。年間入院数は前年同様で、限られたベッドを有効に活用するため、平均在院日数の短縮に努めております。当科に療養目的に入院したい、と外来にいらっしゃる患者さんが日々後を絶ちません。(もちろん入院できません。) 転院先が少ないことも、過去、現在、未来の地域の問題でしょう。

手術数及びその内容について

年間手術数は538例で前年比やや減となりました。1名のスタッフの減少にも関わらず症例数はあまり変わりません。しかし、内訳は外傷が全体の約60%で昨年に比べ外傷の比重が増えています。四肢外傷のうち3分の1が上肢、3分の2が下肢で、大腿骨頸部骨折に代表される高齢者の骨折が確実に増加しています。避けられない手術が増加した一方で、スタッフの減員による影響が変性疾患の手術数減少として如実に表れています。年々増えてきた脊椎手術も本年は66例にとどまりました。しかし3次救急病院としての使命から頸損による四肢麻痺、胸腰椎損傷による対麻痺例の脊柱再建なども積極的に行っております。上肢では肩板修復・関節形成・絞扼性神経障害手術等、下肢では赴任2年目となった三上を中心に人工関節置換、鏡視下膝関節手術等多数行われ、膝前十字靱帯再建術も定期手術のようになりました。

3人必要な手術も増えていることから病棟業務や救急外来への対応が困難な状況が頻発しておりご迷惑をおかけしております。

今後の展望

『広域な医療圏内での外傷治療を地域センター病院として一手に引き受け、多様な整形変性疾患

に対する治療を広範囲に扱うとなると、手術、術後リハビリ、保存療法等、限られたベッド、スタッフであらゆるニーズに応えて行くのはやはり不可能です。地域の整形疾患のニーズを考えると一箇所のセンターで扱うには当院医療圏は広すぎます。外傷を含め、頻度の高い整形疾患を扱っていただけるサブセンターのような施設が必要と思います。またある程度の長期リハビリのできるような施設も望まれます。このような施設の充実が将来実現するよう希望します。』 昨年の本項にも書きましたが現在も同様と思います。現実には近年中にはこのような動きはなく、今後の展望に関しては閉塞感を感じずにはいられません。あまりに余裕のない診療体制は様々な医療事故等の危険をはらむこととなります。安心できる良質の医療を提供できる様、確実な診療を維持できるよう努めてまいりたいと思います。

平成12年 手術件数		538 例
(重複例を含む)		
上肢	外傷橈骨遠位端骨折	32 例
	その他上肢外傷	94 例
上肢変性疾患	拘約性神経障害	11 例
	その他変性疾患	32 例
下肢外傷	大腿骨頸部骨折	51 例
	他の骨盤・大腿部	15 例
	膝～下腿部	35 例
	足関節・足部	30 例
	アキレス腱断裂	18 例
	膝鏡視下手術	58 例
	靱帯再建術	9 例
下肢変性疾患	骨切り術・人工関節	17 例
	脊椎	
脊椎	頸椎	18 例
	腰椎	48 例
金属抜去		57 例
感染・腫瘍・その他		23 例